《経行腹痛》

機序：脾が弱っている→相対的に肝があらぶる→肝気横逆→経行腹痛

解説：①気滞：気滞による痛みの特徴は移動する痛みや、ガスがたまったような痛みである。これは本症例における痛みの特徴と合致しない。また、肝による痛みに特徴的な、感情の起伏に伴った痛みの変化の記述はない。

　　　②瘀血：瘀血は無いが、血の問題はありそうである。血の流れが滞っている可能性がある。

③痰：痰飲の記述ない

④寒湿の邪：外邪が入って来ていることを示す所見は無い

《手足の冷え》

機序：血虚(熱の伝導媒体が不足)→手足の冷え

解説：陽虚：陽虚と言えるほどの激しい所見は見られない

　　　寒邪：外邪が入って来ていることを示す所見は無い

《処方》

当帰芍薬散

補足：もし効かなかった場合は当帰四逆加呉茱萸生姜湯も考慮

《その他》

膠原病予防の側面：SLEとシェーグレン症候群のオーバーラップが考えられるが、とりあえず今目の前に見えてる症状に対処すべき。

肝気横逆に関して：脾が弱い。月経の時だけ脈に血が流れ込み、流れが滞ることでもともと隠されてるトラブルが増幅されている。

気虚：「疲れやすい」など、気虚を強く示唆する所見は無い

病因病邪：示唆する所見がはっきりしないから、病邪つける理由はない。

感染症：感染症の病歴はなさそう。